

【令和4年度 授業改善推進プラン】

板橋区立板橋第二小学校

【国語】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に対して意欲的に取り組む。 ・簡単な文章は読み取ることはできる。 ・複雑な文や主語が省略されている文等を正しく読み取ることが不十分である。 ・自分の考えをもっているが、相手に伝えることが苦手な児童がいる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を正しく理解する力を身につけさせられていない。 ・他の人の考えを自分の意見や考えと比較する場が少ない。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを、全体に伝える時間を多く設定する。 ・分からない言葉は、すぐに辞書などで調べるよう指導する。 ・自分の考えや調べて分かったことを、相手を意識して発表する活動を増やす。 ・スタディアップタイムで視写や校閲・読み取り問題などに取り組む。 ・主語と述語の関係や指示語の内容を確認する活動を増やす。

【社会】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から情報を正確に読み取る力が不十分である。 ・定義に基づいて発表することが苦手である。 ・まとめの文章を要約してまとめられない。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・資料と文章を対応させて考えられるような問いかけが少ない。 ・教科書の文言を活用した定義のおさえができていない。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・資料と文章を対応させて読み取れるように問いかけを増やす。 ・根拠を基に自分の意見を発表できるよう、キーワードや定義を板書に明記する。 ・まとめをする際は、めあてに立ち返って本時の内容をまとめられるように促す。 ・デジタル教科書を活用し、資料と文章を対応できるように指導する。

【算数】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・知識理解や計算処理、図形の作図等の力に関して個人差が大きい。 ・既習事項から課題を解決する力が不十分である。 ・文章問題や応用問題になると、読解力が足りずに正答できない児童がいる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間内で、個別に学習支援を十分にできていない。 ・電子黒板やタブレットパソコン、デジタル教科書や実物投影機などの機能を十分に活用できていない。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを書く時間を増やす。 ・友達の考えを聞くことで、自分の考えをより明確にし、修正するなど、児童が主体となった話し合いができるように指導する。 ・スタディアップタイムで作図する時間を設ける。 ・タブレットPCのミライシードを使い、児童が習熟度に合った問題に取り組めるようにする。 ・放課後教室、長期休業中の補習教室で習熟度の低い児童に指導する。

【理科】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ビオトープの活用を通して、生命尊重の意識が高い。 ・既習事項から根拠をもって予想できる力が育まれている。 ・ノートに自分の考えや予想をまとめる力が不十分である。 ・資料と文章を結び付けて考えられない。 ・定義を理解していない。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・資料と文章を対応させて考えられるような問いかけが少ない。 ・教科書の文言を活用した定義のおさえができていない。 ・自分の考えを書く時間が少ない。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・資料と文章を対応させて読み取れるように問いかけを増やす。 ・根拠を基に自分の意見を発表できるよう、キーワードや定義を板書に明記する。 ・まとめをする際にキーワードを使ってまとめるよう促す。 ・デジタル教科書を活用し、資料と文章を対応できるように指導する。 ・実験の手順について、絵と文を対応できるよう問いかけを増やすとともに、板書をして明確に結び付けていく。

【生活】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ビオトープ等が生活に根付いていることもあり、生き物や植物に興味をもっている児童が多い。積極的に世話をしたり、その変化の様子に気付いたりすることができる。 ・調べたことや感じたことを絵や文で表現する際の、表現の仕方や意欲に偏りが見られる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・見たことや感じたことなどを主語、述語に気を付けながら文を書く指導が少ない。 ・表現したものを自分の言葉でわかりやすく友達に伝える場が少ない。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・主語や述語を意識して文を書くように指導を行う。 ・調べ学習でわからない言葉がある時は辞書で調べる活動を行う。 ・既有体験等を基に類推したり、推測したりする活動前の話し合いや、活動後の振り返り、伝え合い、表現活動などの言語活動を充実させる。

【音楽】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動に意欲的に取り組むことができる児童が多い。 ・活動内容によっては、思いや意図をもって表現することが苦手な児童もいる。 ・楽器の演奏やタブレット端末を用いた活動には積極的に取り組んでいる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協働して音楽活動を行い、表現の工夫をする機会が少ない。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽合奏やリズム活動を意図的に行うことで一人一人が思いや意図をもてるようにする。 ・自分の思いを言語化できるように音楽の言葉を示す。それらを正しく使えるようにして、みんなの思いに広げてタブレット PC も活用しながら協働の活動ができるようにする。

【図画工作】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・技能面でのつまづきや、学習意欲をもちづらい児童がいる。
--------	--

■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の計画を立てながら目的に向かって活動する機会が少ない。 ・作品作りにおける創意工夫への意欲を引き出す手立てが不十分である。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を積極的に活用し、視覚的に情報を伝達することで作業の見通しをもちやすくさせる。教師が作成した資料を児童が必要なときに参照できるようにする。 ・児童に提供できる「創作のヒント」を増やす。 ・教科書の文章と図を対応させ、読み解く力の育成を意識した授業展開をする。

【家庭】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の資料から正しく読み取り、理解する力が不十分である。 ・身に付けた技能を実生活で生かしていく力が不十分である。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・裁縫を体験させる時間が少ない。 ・個に応じた指導が不十分である。 ・教材教具の提示方法を工夫できていない。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・写真と文章を対応できるよう問いかけを増やす。 ・振り返りの視点を明確にし、実生活に生かせるように促す。 ・ICT機器の写真や動画を活用し、個に応じた助言ができるよう授業展開を工夫する。

【体育】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童が楽しんで取り組んでいる反面、苦手意識をもち困っている児童もいる。 ・技能面では個人差が目立つ。 ・主体的に動ける児童が少ない。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な運動についての効果的なアドバイスを授業内で十分に行えていない。 ・技能面だけでなく、生涯スポーツを目指した活動が不十分である。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のめあてに対して振り返りを行う時間を設定する。 ・スモールステップの場を作り、どの児童も達成感を味わえるようにする。 ・友達同士で教え合い、課題を解決していけるようにする。 ・児童が参考にできるような資料を用意する。 ・校内の教員が活用できるようにワークシートや学習カードを共有する。 ・課題解決するために、器械運動領域を中心にタブレット端末を活用する。

【外国語活動】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつやアクティビティには意欲的に取り組んでいる。 ・理解度や定着度の個人差が大きい。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間ごとのねらいを深く理解し授業を行っていない。 ・理解度や定着度の児童に応じた指導ができていない。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT から指導方法についての助言を受け指導に活かす。 ・身に付けるべき授業や文型の定着度をみとりながら授業を行う。 ・チャンツや歌、踊りなどを適宜取り入れる。 ・授業で目標とされる文型以外の文型にもふれさせる。

【総合的な学習の時間】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見付けたり、課題解決のために情報を整理したり、分析したりして考える力と自ら工夫して表現したり、発信したりする力がやや不十分である。 ・インターネットを活用し、情報を収集した後、児童が「他者から得た情報」なのか「自分の考え」なのかを意識して発信できていない。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を児童が自ら見付けていき、児童が意欲的・主体的に取り組めるような単元計画、指導計画、授業における教師の関わりなどの工夫、改善の必要がある。 ・次年度への学びの意欲、探求的な学習ができるよう学習成果を活用させたい。 ・各学年の学習課題がSDGsの実現にどのように関連するものなのかを、教師が更に意識を高めて取り組む必要がある。 ・一人一台端末を学習形態に合わせて活用させる指導が不十分である。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・単元づくりにおいて探究的な活動の流れ(課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)を重視し、各段階の活動の目的や必然性を意識した授業を行う。 ・体験的活動を取り入れたり、共通体験の場を設定したりして児童の探究意欲を高める。また、児童自ら課題解決に向かえるようにするため、活動の方向性を決める時や情報を分析したり、意思決定が必要となったりした際、話し合いの場を設定する。 ・児童が情報収集に必要な図書資料を学校の司書や地域の図書館の司書に依頼して集める。 ・発表を行う際は、Chromebookのスライドや電子黒板を活用する。 ・資料収集やまとめ・表現活動よりも資料の整理や分析、発表に対する意見の交流に重点を置いて指導を行う。 ・タブレットパソコンをインターネットからの情報収集のみにとどまらず、学級・学校での意見交流の場として活用していく。 ・3～6年でSDGsについて4年間を通して学べる単元を設定する。

【道徳】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを素直に発表することができる児童が多い。その反面、発表することが苦手な児童もいる。 ・道徳ノートに思いを書き、表現できる児童も増えてきた。 ・教材の内容を理解できない児童がいる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と児童の一問一答やりとりで授業をすすめてしまうことがある。 ・ペア同士で話し合う、全体で伝え合う場が少ない。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・教材について、わかりにくい言葉や文の意味は、言葉の意味を確認しながら読みすすめる。 ・ICT(デジタル教科書等)活用しながら、教材提示を視覚的に行い、教材の世界に浸るようにさせる。 ・ペア活動、集団での話し合い活動を多く取り入れる。 ・オクリンクやJamboardを活用し、全員が意見を共有する場を作る。

すべての教科で実践すること

- ・授業で学習まとめをする時、児童自身が授業で学んだ事を文にまとめる時間を設け、自分の考えを記述する。(キーワード、文字数の制限など)